

# くにみ 議会だより

No.174  
9月議会号



## 見事にゴールイン!

くにみ幼稚園運動会のようす。みんな一生懸命がんばりました。

### 9月定例会

道の駅建設工事が完了  
町の復興と交流の拠点となる  
平成28年度決算を認定 P2

こんなことがありました(28年度のおもな事業) ————— P4  
ふるさと納税に係る事業費などを増額(29年度補正予算) ——— P8  
議会基本条例を改正 ————— P11  
一般質問(ミサイル発射時の町の対応など7人が登壇) ——— P13  
地域の復興促進のため三町議会が結束  
～伊達郡町議会議員大会～ ————— P22

# 建設工事が完了

## 町の復興と交流の拠点となる

**一般会計歳出 88億9448万円**

9月議会定例会は9月5日から14日まで10日間の会期で開かれました。

今定例会には、平成28年度決算認定やふるさと納税に係る事業費等を増額する補正予算など29議案が提出され、すべて原案どおり認定、可決、同意しました。

一般質問では7人の議員が登壇し、8項目にわたって町政をただしました。

### 一般会計決算

平成28年度一般会計決算額は、歳入総額が94億4993万円(前年比25・0%減)、歳出総額が88億9448万円(前年比25・2%減)となり、翌年度に繰越す事業の財源を差し引いた実質収支額は3億8880万円(前年比29・6%減)の黒字決算となりました。

おもな事業は、道の駅の建設や備品購入、除染対策(住宅・空地などの除染、除去土壌の搬出)の本格的

な推進、農産物加工施設

「MOMOCO」の整備、

老朽化に伴う中学校の外壁や屋上の改修工事などが挙げられます。今後も地方創生や歴史まちづくり計画の推進など主要事業が控えているため、さらなる財源確保と歳出削減などに取り組み、安定した財政運営に努めなければなりません。

### 歳入

自主財源の中心となる町税は前年比2027万円増となり、依存財源である地

### 町債(借金)年度末現在高

会計名	平成28年度	平成27年度
一般会計	66億8708万円	63億1050万円
下水道	16億5769万円	16億9048万円
合計	83億4477万円	80億98万円

### 主な基金年度末現在高

基金	平成28年度	平成27年度
財政調整基金	8億5431万円	8億5304万円
復興基金	6321万円	6738万円
東日本大震災復興支援交付金基金	1236万円	3234万円
ふれあい福祉基金	1億5197万円	1億5197万円

### 平成28年度特別会計決算状況

会計名	歳入総額	歳出総額
公共下水道事業	2億3320万円	2億3168万円
後期高齢者医療	1億1338万円	1億1277万円
国民健康保険	13億9412万円	13億1032万円
介護保険	10億7072万円	10億4436万円
土地開発事業	1356万円	1251万円
渇水対策施設	967万円	846万円
大木戸財産区	16万円	14万円
入山財産区	19万円	17万円

### 歳出

方交付税は、森林再生事業やため池放射物質対策事業、貝田ほ場整備事業のための震災復興特別交付税が一時的に増加したことにより、前年比4825万円増となりました。

義務的経費(人件費など)は前年比3145万円増、投資的経費(災害復旧費など)は5億9998万円増、一般的経費(物件費など)は除染事業分の大幅減によ

り35億4456万円減、その他の経費(積立金など)は7860万円減となりました。住宅や道路などの除染作業が落ち着いたことが大きく影響し、前年度より減少しています。

### 平成28年度水道事業会計

収支別	収入	支出
収益的収支	2億6503万円	2億2149万円
資本的収支	1億5552万円	1億9772万円

資本的収支の不足分は過年度分損益勘定留保資金及び減債積立金で補てんしました。



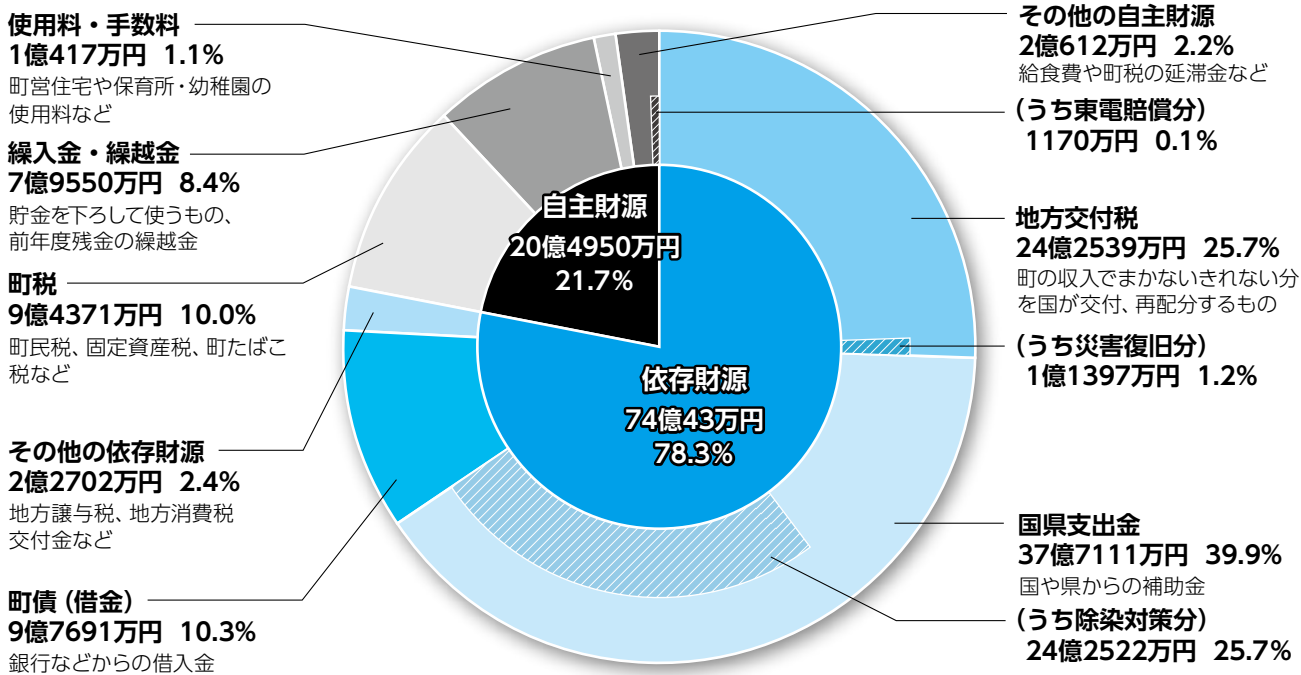


道の駅には町内外からたくさんの方が訪れています

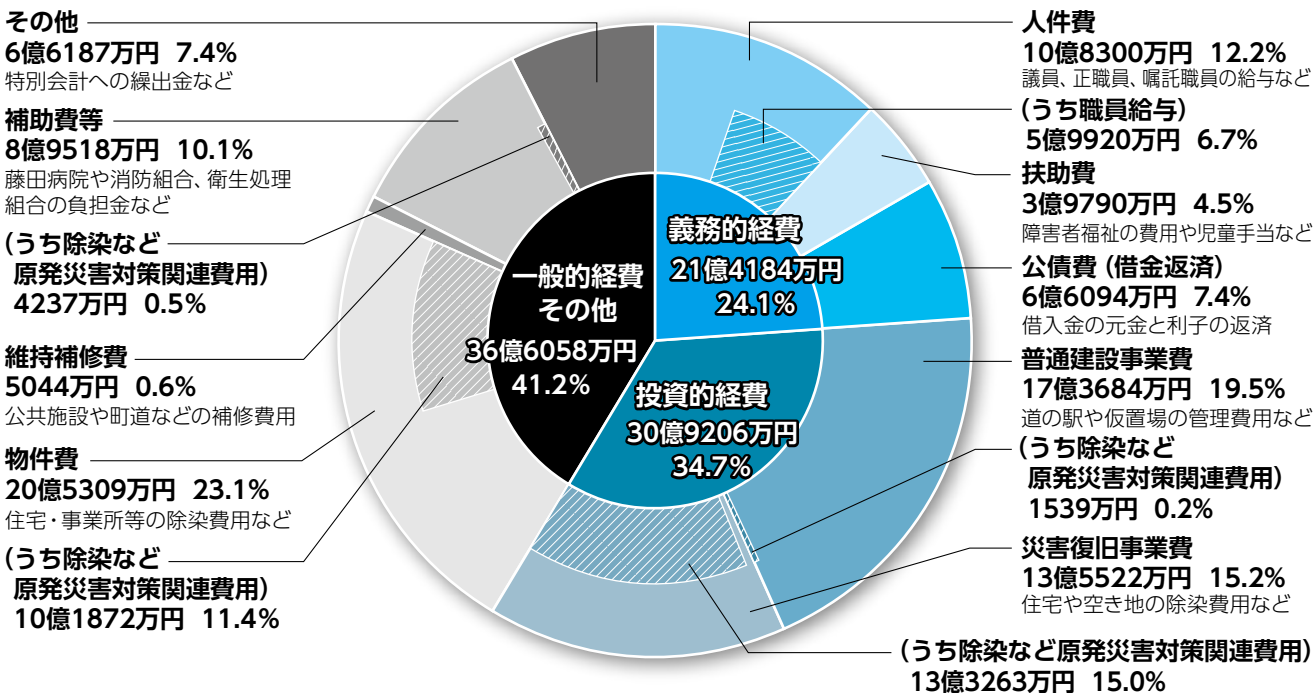
# 道の駅

## 9月定例会

### 歳入 94億4993万円



### 歳出 88億9448万円



# ありました

## したおもな事業

### 道の駅の整備（継続）

11億1025万円



道の駅建設に関する建設工事のほか、備品の購入なども行いました。

### 農産物加工施設整備（継続）

5567万円



地元産品の6次化を推進するため、農産物加工施設「MOMO・CO」を整備しました。

### 国見小学校校庭改修

4181万円



水はけが悪かった小学校の校庭を改修し、雨の後の心配がなくなりました。

### 国見町物産展事業

420万円



9月に東京都の歌舞伎座で、国見町単独での物産展を初めて開催しました。

### 明日へ。復興・きずなイルミネーション事業（継続）

390万円



イルミネーション、キャンドルパーティーを実施しました。



## 除染と仮置場の管理・除去 土壌等の搬出(継続)

24億2522万円



安心できる生活環境を取り戻すため、住宅や空き地除染のほか、除去土壌等の搬出なども行いました。

## 地方創生(加速化・推進交付 金を含む)

8956万円



まちづくり・ひとづくり・しごとづくりや地域のブランド化に向けた基礎づくりなどに組み込みました。

# こんなことが

## 平成28年度に実施

## 県北中学校校舎大規模改修 (継続)

8568万円



老朽化に伴い、県北中学校の外壁や屋上などを改修しました。

## あつかし歴史館整備

2417万円



旧大木戸小学校を改修し、町の歴史や文化資料を展示・保存するあつかし歴史館を整備しました。

## まちづくり推進事業(継続)

1075万円



義経まつりや阿津賀志山ビッグツリー、桜まつりなどを実施しました。

# 平成28年度決算認定

平成28年度各会計決算認定は、一般会計ほか9件すべてを原案どおり認定しました。  
おもな質疑は次のとおりです。

## 質疑

一般会計 歳出

### デマンドタクシー

#### 利用者減への対策は

**問** (阿部泰藏議員)  
デマンドタクシー

は高齢化社会に向けて重要な交通手段である。補助金951万円を支出しているが、年間利用者が少ない状態だ。何か対策はあるのか。

**企画情報課 課長** 利用者は運転高齢者が主体だが、昨今は免許を持つ高齢者も多い。今年度の取り組みとして、デマンドタクシーの運行について、商工会や利用者などからの様々な要望も含め

### 食卓図鑑はメニュー開発が目的ではないのか

**問** (松浦和子議員)  
地域食材活用事業

579万円について、道の駅レストランのメニュー開発と聞いた。食の文化祭で町の皆様にもご協力いただいて伝統食を探して食卓図鑑も作成し、さらにメニュー開発にお金をかける必要があったのか。

**まちづくり交流課 課長** メニュー開発入れ先選定、レシピ作成、開業前のプレパーティーでの食材費や調理費なども含んでいる。郷土食や行事食

て、公共交通機関としての方を検討している段階である。

をメニューに反映したいと考え、プロのアドバイスも受けながら成果を利用し取り組んだ。

食卓図鑑については、メニューの開発につながるだけでなく、国見の食文化を見直し、住む方の誇りになるような状態を作り出すことで元気を持つていただき、食文化を発信したいと取り組んだ事業である。PR効果も大きかった。食文化を見直す上でさまざまな反響があり、少し主旨が違うとご理解いただきたい。

### 経営開始支援資金の詳しい内容は

**問** (村上一議員)  
経営開始支援資金

経営開始支援資金140万円について、70万円ずつ2名と聞いた。後継者の育成資金で、何年就農すれば返還はなくてよいとのことだが詳しい内容を伺う。

**産業振興課 課長** 無利子で貸し付けており、据え置き期間が5年である。継続的に営農を進めるとなれば、その後貸付金は免除となる制度である。

### 農業振興費の調査委託料の用途は

**問** (井砂善榮議員)  
農業振興費の調査

委託料987万円はどのような事業に使われたのか。

**産業振興課 課長** おもなものとして、水田土壌などの放射能測定調査に支出している。

### 道の駅開業までの経費はどのくらいか

**問** (浅野富男議員)  
交流の場建設推進

交流の場建設推進費に道の駅の開業までの経費が示されている。どのくらいの金額で、当初から予定されていた金額であると考えるのか伺う。

健全化判断比率 (%)

区分	28年度 (27年度)	早期健全化基準
実質赤字比率 <sup>*1</sup>	赤字なし (//)	15.00
連結実質赤字比率 <sup>*2</sup>	赤字なし (//)	20.00
実質公債費比率 <sup>*3</sup>	6.6 (7.0)	25.00
将来負担比率 <sup>*4</sup>	70.7 (62.3)	350.00

※1 一般会計と公営事業を除く特別会計の赤字の割合  
 ※2 公営事業を含む全会計の赤字額の合計の割合  
 ※3 収入に対する負債返済の割合  
 ※4 将来支払う見込みの負債割合



# 決算審査報告

代表監査委員 佐藤 徳正 / 監査委員 松浦 常雄

各会計の決算書が関係法令に準拠しているか、財政運営が適正かを主眼として審査をしました。その結果、各会計とも黒字を維持しており、計画的な財政執行による収支の均衡と健全な財政運営が行われていました。

また、健全化判断比率、資金不足比率審査は、その算定と基礎となる書類が適正に作成されているかを主眼として実施しました。

その結果、いずれも適正に行われていました。

健全化判断比率は、将来負担比率で若干の増加があるものの、実質公債費比率は減少しており、早期健全化基準を下回っているため、良好な状態です。

公営企業の経営状況は、下水道事業特別会計、水道事業会計、土地開発事業特別会計のいずれも資金不足はありませんでした。(抜粋)



適正な財政運営であったことを報告する佐藤徳正代表監査委員

**建設課長** おおまかに、建設課所管のハード部分は約25億円である。当初の設計段階から約4億円程度増えている。財源は国負担金が約3億円、補助金が約

5億7千万円、県補助金が約1500万円、起債が約15億8200万円、一般財源は約3千万円である。

## 学校に割り当てたタブレットの利用で勉強法は変わったか

### 問

(渡辺勝弘議員)

公民館費の消耗品費でタブレット端末を購入して学校に240台割り当てている。学校での利用方法や、導入によって変わったことなどを伺う。

### 教育長

学校ではパソコン室を設置して授業で使えるようにしているが、パソコンは固定で使い方に制限が出てくる。各教室で普段の授業でのタブレット活用が進んでいる。資料の調査やグラフの作成など、授業のパーツとして有効に使用している。

## 地方税を増やすための町の考えは

### 問

(八島博正議員)

町に働く場所がなく約80%は町外で働いて税金を納めている状況である。道の駅が働き場所

も増えたが、まだまだ少ない。これからの財政で、地方税を増やすための考えを伺う。

### 町長

財政力指数をいかに上げていくかは重要である。どこの市町村も3割自治からの脱却を目指している。復興事業と併せ、元気活力事業で町全体に活力をどう付けるかが税収にもつながると考えている。交流連携が今後最大のポイントであり、人口増となれば、税収増になる。核となるのは道の駅である。いかに自主財源を確保し町の活性化や将来の維持発展につながるかが重要な課題だと考えている。町のみでできることではなく、近隣市町村や関連団体などと交流連携をし、急にはできないが、常に目配せをしながら進めていく。

## 討論

### 反対討論

(浅野富男議員)

町民が期待した道の駅が完成し、現時点での町民の声として、道の駅が恐怖にも感じられると聞こえてくる。死活問題として受け止めている人もいる。事業のやり方などが町民の考え方からかけ離れている面もかなりあると思われる。もっと前向きな評価を受ける必要があると考えるため、認められない。

### 賛成討論

(佐藤定男議員)

平成28年度の歳入歳出は、道の駅の部分が大きい。復興の最後の事業として町民の大部分はオープンを喜び、今後の順調な維持発展を願っていると思う。中身も認められた予算の中で運営されてきたものと理解しており、決算認定について賛成する。

# ふるさと納税に係る 事業費などを増額

平成29年度補正予算のうち、一般会計(第3号)は1億2677万円を増額し、予算総額60億5386万円とすることを全員賛成で可決しました。

おもな内容は、ふるさと納税に係る返礼品や業務委託料などの費用2600万円や、石母田地区の森林整備のためのふくしま森林再生事業費1252万円などで、その財源は寄附金や補助金などでまかないます。

## 質疑

**公用車の更新で車種の検討はされたのか**

(佐藤定男議員)

公用車の購入に、295万円の支出がある。車種はどのようなものか。以前、一般質問で公用車の管理について質問した。今

回の更新に当たり、車種の検討はされたのか。  
**総務課長** 新しい車はワゴン車で、更新前と同等の車種を購入する。目的、用途などを検討し、決定したものである。

**ふるさと納税額の支出内訳は**

(渡辺勝弘議員)  
ふるさと納税業務

委託料について、支出明細はどのようになっているのか。また、委託金額は納税額が多いほど上がるのか。

**総務課長** 納税額の5割を返礼品に、送料と業者委託料にそれぞれ1割支払う。したがって残りの3割が町の収入となる。委託金額については、納税額に応じて増減する。

**農業経営力向上  
支援事業の内容は**

(井砂善榮議員)  
農業振興費で農業経営力向上支援事業に40万円の補助金が計上されている。どのような内容なのか。

## 平成29年度一般会計 補正予算(第3号)の主な内容

【主な事業】	
・ふるさと納税にかかる事業費	2600万円
・石母田地区の森林整備のための事業費	1252万円
・町道の維持修繕費	513万円
・町営住宅改修工事の増額分	500万円
・土地購入費用	354万円
・公用車の購入にかかる費用	297万円
・歴史めぐり観光キャンペーン費用	283万円
・その他(人件費の整理、集会所の改修補助金など)	6878万円
計	1億2677万円

【主な財源】	
・ふるさと納税寄附金	2600万円
・国・県からの補助金など	1537万円
・地方交付税	403万円
・町債(借金)	-974万円
・その他(前年度繰越金・特別会計繰入など)	9111万円
計	1億2677万円

## 産業振興

貝田地区等ほ場整備事業を契機に、地元では農業の担い手として農事組合法人の設立を目指している。その組織への補助金である。

## 建設

各入居者の戸内ではなく、公営住宅で設置をしなければならぬ基準に当てはまる部分について、通路に設置する消火器の更新である。

**町営住宅の消火器は町負担か**

## 問

(阿部泰藏議員)  
住宅管理費で消火器設備44万円の支出がある。入居者用の消火器か。



## 超過勤務手当が 増加している理由は

### 問

(渡辺勝弘議員)

超過勤務手当について、総務費・商工費合わせて3880万円計上されている。極端に増額されたのはなぜか。また、偏った部署に超過勤務が多くなると職員の士気が下がることも考えられる。今後何か対策を考えているか。

### 副町長

当初予算では、超過勤務は予算総額の5%以内とするルールがある。震災からの復旧復興の第2ステージの目玉は町の活性化である。風評対策や復興のためのイベント業務の根幹を担うのが総務費、商工費であり、今後も見通して予算を計上している。全課のヒアリングも行う、状況把握に努めるなど、職員の心のケアも含め万全を期していきたい。

## 人件費圧縮のため超過 勤務削減への町の考えは

### 問

(八島博正議員)

超過勤務分4000万円は本来支払わなくていい金額である。人件費圧縮には超過勤務を削るしかない。職員の超過勤務は町政運営には避けて通れないが、超過勤務を減らす手立てはあるのか。また、まちづくり会社へ出向している職員について、道の駅で超過勤務した分を支払うのはおかしいのではないか。町とまちづくり会社との関係は。

### 副町長

大震災と原発事故については

待ったなしの対応を求められ、必死に取り組んできた。超過勤務削減への対応としては、各課のヒアリングを通して効率化を図るため、組織の見直しもしている。復旧復興は平成27・28年度がピークとみている。今後を見据えて補正をお願いしているが、平成28年度の決算額から15%減を目安に考え

ている。

また、道の駅との関係では、基本的にハード整備は町、運営に関してはまちづくり会社としているが、派遣職員分は町で負担している。どのような形が望ましいか今後検討していく。

### 町長

復旧復興、まちづくりのベースは職員である。健康管理にも気を配り、なるべく超過勤務を減らそうという流れは作っている。大震災から復興創生期間に入り、平成32年度まではさまざまな事業が来るので、前向きに取り組むことが大切である。こういった議論は、賠償請求をする理由にもなり、今後につなげていくと思う。人件費、超過勤務は重要な課題である。さらに縮減し、町の活性化につなげていきたい。

## 一般議案

### 消防ポンプ自動車 一式を購入

#### 動産の取得

(要旨) CD-I型消防ポンプ自動車一式を1709万6400円で「株式会社モリタ仙台支店(宮城県)」より購入する。

### 契約解除違約金に ついての訴訟で和解

#### 和解について

(要旨) 国見ニュータウン住宅用地の土地譲渡契約に基づき、契約解除違約金の支払いを求める訴訟において和解をする。

#### 【和解条件】

- 町に175万6千円を支払う
- 支払いを分割して行う

## 議案審議 結果

※下記以外の議案は全員賛成で可決されています。

議案等	議員名	議決結果	八島博正	浅野富男	阿部泰藏	松浦常雄	渡辺勝弘	村上正勝	佐藤定男	井砂善榮	村上一	松浦和子
認定第1号 平成28年度国見町一般会計歳入歳出決算認定について		可決	○	●	○	○	○	○	○	○	○	○

○：賛成 ●：反対 □：討論者  
※議長(東海林一樹)は採決に加わらない。

# 町長の行政報告（抜粋）

●北朝鮮の弾道ミサイル発射への対応については、全国瞬時警報ネットワークシステム「Jアラート」の発令を受け、防災行政無線で町民の皆様に緊急情報をお知らせした。

## ■東日本大震災からの早急な復旧・復興

- 除染対策は、公共施設等に保管している除去土壌を8月下旬から仮置場に搬出。一時保管後に中間貯蔵施設に輸送する。
- 平成29年産米の全量全袋検査は、県産米の信頼性の回復と食の安全・安心の確保のため今年度も9月25日から取り組む。

## ■安全安心な町政の実現

- 総合防災訓練は、9月10日に町内6地区で、それぞれ安否確認など各種訓練を実施した。
- 7月5日、6日の九州北部豪雨による大規模な土砂災害で多くの犠牲者が出たことから、小坂地区、石母田地区、大木戸地区にて8月11日と12日に土砂災害に係る説明会を開催した。

## ■活力ある町政の実現

- 9月23日の義経まつりでは、義経役に若手俳優の西銘駿さんを起用。静御前役は公募とし、県内外から多くの応募があった。また、道の駅国見あつかしの郷においてもステージイベントを行った。
- 道の駅国見あつかしの郷は、7月15日に来場者50万人を達成した。お盆時期のサマーフェスタでは7日間で7万人が来場した。
- 「復興庁地域づくりハンズオン支援事業」は、町の次世代を担う若者を対象に、「国見プロジェクト学習」「国見カスタムラボ」「国見ホイスコーレ」の3事業を実施している。8月21日には、道の駅もたんカフェにおいて若者自らが企画、準備、広報、運営を行う「kuni's bar（クニズバー）」を開催し、好評を得た。

## ■思いやりのある町政の実現

●子育て支援事業については、7月2日に「くにもキッズフェスティバル」を開催した。

## ■町の継続的な維持発展

- 国見ジュニア応援団は、7月15日から岩手県平泉町、8月1日から北海道ニセコ町を訪問し、モモのPR活動などを行った。8月4日に平泉町の児童30名、8月16日に岐阜県池田町の小中学生10名が国見町を訪れ、応援団と交流活動を進めた。
- 町民の皆様との懇談会については、7月に福祉関係者や町内主要企業の方々を対象に実施したほか、8月26日にはくにもの日プレ事業として「町長と対話の日」を実施した。
- 学校教育では、8月5日から7日にかけて秋田県大館市で行われた中体連東北大会で、県北中学校のバレーボール男子が出場し健闘した。



子どもたちはスポーツでも町を盛り上げてくれています  
(県北中学校男子バレーボール部のみなさん)

# 選挙

## 国見町・桑折町有北 山組合議会議員選挙

- 任期満了に伴う国見町・桑折町有北山組合議会議員選挙（各地区の推薦候補者）が行われ、国見町から以下のとおり当選しました。
- 第1選挙区（小坂） 一條 善助氏
  - 第2選挙区（泉田） 安孫子 正氏
  - 第3選挙区（鳥取） 本田 精司氏

- 第4選挙区（内谷） 菅野 宏晴氏
- 第5選挙区（藤田） 秦 富夫氏
- 第6選挙区（山崎） 高橋 俊郎氏
- 第7選挙区（塚野目） 高橋 佐七氏

※国見町・桑折町有北山組合議会とは  
国見町、桑折町の特定地域が白石市小原地内の山林一部を所有し、管理するための一部事務組合。国見町、桑折町からの議員12人で議会を構成。

# 人事

## 教育委員会委員 2名の再任に同意

教育委員の任期満了により、現職の高橋幸子氏（藤田）、石川博利氏（森山）の再任に同意しました。

## 固定資産評価審査 委員会委員2名の 再任に同意

任期満了に伴う固定資産評価審査委員会委員に、再任の菅野俊光氏（内谷）、新任の安田博三氏（藤田）を選任することに同意しました。



# 議会基本条例 を改正

議会改革推進会議

平成26年3月議会で制定された議会基本条例を改正しました。この条例は、議会活動が町民の皆様に理解されるよう、また、議会が本来の活動を十分発揮し、町政が円滑に運営されるように制定されたものです。

第22条で任期開始後、直ちに条例の目的が達成されているか検討することが規定されており、議会運営委員会で検討後、議会改革推進会議で議論を重ねた結果、7項目を見直したものです。

なお、改正項目の内容は以下のとおりです。

(報告者 八島博正)



改正前(要旨)	改正後(要旨)	検討内容
<b>第2章 議会・議員の活動原則</b>		
(議会の活動原則) 第2条第2項 <u>○正副議長の選出</u> ・本会議において所信を表明 ・選出の過程を明らかにする	(議会の活動原則) 第2条第2項 <u>(削除)</u>	正副議長への立候補者に限らず、全議員に等しく資格がある。所信表明をした議員のみに投票を促すと誤解を招く規定をするのはいかがなものかという見解もあり、あえて条例には規定せず、これまでどおり所信表明の機会を公開にて設けるとする。
第2条第4項 ○議会は会議を定刻に開催 ○会議を休憩する場合の理由と再開時刻を傍聴者へ説明	第2条第4項 ○議長は会議を定刻に開催 ○会議を休憩する場合、その旨と再開の時刻を告知	休議時は、会議途中で委員会等の開催をする場合を除いて理由までは説明しておらず、再開の時刻を告知すれば良い。また、傍聴者および会議出席者に対して向けられる告知であることから、現状を踏まえ文言を整理した。
(町民参加及び町民との連携) 第4条第2項 ○議会主催の一般会議を設置するなど、町民が議会の活動に参加できるよう措置  第4条第6項 ○議会は重要な議案に対する各議員の態度を議会広報で公表	(町民参加及び町民との連携) 第4条第2項 ○議会主催の会議を設置するなど、町民が議会の活動に参加できるよう措置  第4条6項 ○議会は__議案に対する各議員の賛否を議会広報で公表。	町民が議会活動に参加できる機会として「一般会議」と規定していたが、わかりづらいとの指摘もあった。そのため、等しく意見交換のための「会議」と規定することで、適用できる幅を広げた。  全ての議案について、各議員の賛否を議会広報紙で公表しているため、「重要な」という表現は省き、「態度」も「賛否」と改めた。
<b>第7章 議会・議会事務局の体制整備</b>		
(委員会等の適切な運営及び一般会議の設置)  第12条第2項 ○町政全般にわたり、議員及び町民が自由に情報及び意見を交換する一般会議を設置	(委員会等の適切な運営及び意見交換のための会議の設置)  第12条第2項 ○町政全般にわたり議員及び町民が自由に情報及び意見を交換する会議を設置	第4条第2項と同様の検討。
<b>第9章 最高規範性及び見直し手続</b>		
(最高規範性) 第20条第1項及び第2項 ○この条例は議会運営における最高規範 ○日本国憲法、法律等の解釈、運用において、この条例に照らして判断する	(最高規範性) 第20条第1項 ○この条例は議会運営における最高規範であり、議会に関する条例・規則の制定、改廃に当たっては、この条例との整合を図る	第2項に規定した日本国憲法等との関係性について、記載の仕方が憲法より優位にあるような誤解を招くため、第1項、第2項をまとめてわかりやすく整理を図った。

# みなさんからの 陳情

9月定例会では陳情1件を常任委員会で審査し、結果は以下のとおりとなりました。

陳 情	提 出 者	結 果
「全国森林環境税の創設に関する意見書採択」に関する陳情について	全国森林環境税創設促進議員連盟 会長 板垣 一徳	<b>採択</b> (賛成3、反対1、 保留1)
<p>※本会議で次のような討論がありました。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p><b>採択に賛成</b> <span style="float: right;">八島 博正議員</span></p> <p>県で先行して税体制を作り、国見町にも県税から補助が来ている。皆で森林資源・環境を守っていく趣旨であり、全国一律にこの問題を考え、毎日どこかで起きる自然災害をなくすためにも、森林環境税はぜひとも全国民の問題として取り上げて成し遂げなくてはならないため、賛成する。</p> </div> <div style="width: 45%;"> <p><b>採択に反対</b> <span style="float: right;">浅野 富男議員</span></p> <p>すでに森林環境税は県民税に均等割で加算されており、新たに同様の趣旨の税金が創設されることは二重課税となる。環境対策税については、地球温暖化のもととなる化石燃料の大半を使用する大企業の責任も問われる。また、二重課税の問題も検討しないままでの税制度の創設には反対である。</p> </div> </div>		

※議長は採決に参加しない。



委員会での陳情の採択を受け、慎重審議を行い、意見書をまとめました。議会で諮り可決されたため、意見書を提出しました。

## 意見書

9月定例会では意見書1件を賛成多数で可決し、国など関係機関へ送付しました。

### 「全国森林環境税」の創設に関する意見書

山村地域の森林吸収源対策の推進などは地球温暖化防止や国土の保全、地方創生にもつながる。市町村の財源の強化は喫緊の課題であり、「全国森林環境税」導入の一日も早い実現を求めるため。

**可決**  
(賛成8、  
反対2)

議会傍聴をしてみませんか

次の定例会は **12月5日**  
開催予定です

● **手続きは簡単です!**

受付簿に住所・氏名などを記入するだけで気軽に傍聴できます。

● **議案資料を準備します!**

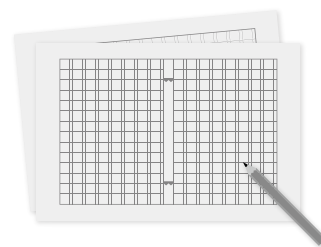
議案審議がわかりやすくなるよう、傍聴者には議案資料を提供します。

詳しくは議会事務局へお問い合わせください。  
TEL 585-3295 (直通)

### 「私もひと言」原稿を募集

議会だよりにみなさんからの意見や要望、議会を傍聴した感想などを掲載します。

日頃から思っていること何でも結構です。字数は600字(400字詰め原稿用紙1枚半)程度です。どしどしお寄せください。



広報常任委員長 松浦和子  
(事務局 TEL585-3295)



## ～7人の議員が登壇し、活発な議論を展開～



# 町政を問う

一般質問

## 9月定例会

議員	質問事項	ページ
渡辺 勝弘	ミサイル落下の可能性が少ない状況での町の対応は	14
佐藤 定男	今後の町債返済の見通しは	15
松浦 和子	道の駅来場者に町の魅力をアピールするべきでは	16
阿部 泰藏	農業ビジネス訓練所研修生の定住化に向けた取り組みは	17
村上 一	地方創生事業での優秀な人材を受け入れる環境づくりを	18
浅野 富男	非核平和都市宣言の看板を掲げては	19
	原発災害損害賠償について責任の所在の考え方は	
村上 正勝	天候不順による被害農家への救済措置は	20

質問、答弁は要約して掲載しています。会議録全文は、町議会ホームページに掲載予定です。[<http://www.town.kunimi.fukushima.jp/groups/gikai/>]

国見町議会ホームページ → 会議録検索 → 会議録検索システム → 会議録検索システムへ

一般質問とは、議員が町政全般にわたり執行状況や将来に対する方針など、諸問題について質問を行い、政治姿勢を明らかにするものです。

# Q ミサイル落下の可能性が少なくない状況での町の対応は

## A 関係機関との連携を緊密にし不測の事態に備える



渡辺勝弘議員

**問** 「弾道ミサイル」落下の可能性が高いと言われている県と低い県との温度差が感じられるが、町の対応は。

**町長** 外国からの脅威に対しては、まず国が対話の道を探りながら、あらゆる対策を講じるべきと考え

る。町では、全国瞬時警報ネットワークシステム「Jアラート」の発令を受け、直ちに防災行政無線を通じて町民に情報を伝達する。

また、関係機関との情報の共有などを最大限に行い、不測の事態に備えたい。

**問** 町のホームページから「弾道ミサイル落下時の行動について」を閲覧できる。全戸配布もされたが、それで十分理解を得ていると考えているのか。

**課長** さらには「住民生活」を深めていただくためにも、県などからの情報を迅速に町民の方に周知していくとともに、学校と連携して子どもたちへの周知も検討していきたい。

**問** できるだけ頑丈な建物や地下施設へ避難すべきと明

記されているが、地域性を配慮した避難場所を設定すべきでは。

**課長** 政府が呼ぶ避難所となる地下施設などは町内にほとんどない。避難場所の設定は地方の自治体が抱える問題で、今後の検討課題と考えている。

**問** 当町には防災行政無線があるが、どのような活用をしたのか。

**課長** Jアラートの緊急情報伝達があり、先の弾道ミサイル発射時も防災行政無線を通じて町民に呼びかけを行い、有効に活用されたと考えている。

**問** 最大限の情報を出すことで町民の混乱も懸念されるが、どのように対応するのか。

**課長** 町独自では困難であることから、国や県などからの情報を伝えることが重要である。町民の皆様迅速な情報提供を行っていききたい。

**町長** 国での対応がベースであり、十分に国際社会を注視していきたい。情報の収集、伝達、共有をしっかり行い、町でできることを研究、検討すべきである。

**問** 防災訓練の実施時、地震や土砂災害だけでなく、ミサイル発射時の避難行動も付け加えることも必要ではないか。

防災訓練は、自然災害時の行動とは異なる。実施している中国・四国地方のやり方や県の考えも含めてリサーチをする必要があると感じた。避難訓練を実施する場合、県など関係機関と連携を図りながら検討していきたい。



Jアラートの発令からすぐ防災無線で情報伝達



# Q 今後の町債返済の見通しは

## A 返済は平準化されており健全財政運営に問題はない

### 問

大震災前、平成22年度の町債残高は51億4593万円、平成28年度は66億8707万円と、この間15億4114万円増加している。特に平成25年度から28年度は、毎年3億から4億円の増加となっている。この増加の理由は何か。

### 総務課長

平成25年度・26年度は役場庁舎建設に、平成26年度から28年度にかけては道の駅建設に事業費がかさみ、起債額が増えたためである。

### 問

大震災前の実質公債費比率は14・9%で23年度以降は12・9%から6・4%

### 副町長

と年々下がっている。町債の残高が増加すれば本来は実質公債費比率も上がるはずである。逆の数値を示しているのはなぜか。

実質公債費比率は直

### 問

町の財政を評価するにはさまざまな数字、比率があり複雑で理解しにく

近3か年の年度平均で算出する。町で行う繰上償還の額が多くなる、比率に変動が出てくる。また、起債に対する国からの措置率が高いものを選んで起債していることも大きな要因である。

### 総務課長

自主財源には特定財源（使用料など）が含まれている。使途が制約されない町税と普通交付税を返済財源と考えると、返済比率は平

### 問

この6年間、大震災からの復興・復興が最大の課題であったことを考えれば町債の増加はやむを得ないことであった。問題はこれからである。今後の町債残高、返済の見通しについて伺う。

### 町長

大震災以降、確かに町債の残

高は増加している。しかし、町債は補てん率の高いものを選択しており、余裕資金は極力繰り上げて返済してきた。町債残高の7割が交付税措置となり、町が実際に返済するのは3割である。返済は平準化されており、仮に今後5年間、毎年3億5000万円ずつ借り入れたとしても返済力に何ら問題はないと考えている。今後とも健全財政運営に向け対応していきたい。



佐藤定男議員



役場庁舎・道の駅の建設にも町債が活用された

**Q** 道の駅来場者に町の魅力をアピールするべきでは

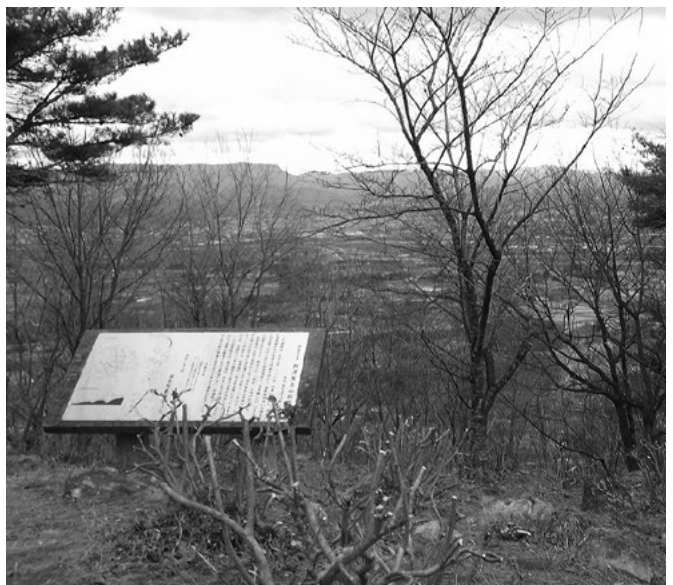
**A** 費用対効果を念頭に置き対応する



松浦和子議員

者の動きも見ながら選択していく。直売もレストランも、動きが見えるまで3年かかるといふ。費用対効果を念頭に置き、取捨選択しながら対応していく。

**問** 阿津賀志山山頂について、以前有識者の意見として眺望以外楽しめるものがない、観光スポットだけでは人は来ないと指摘されたとのことだった。その後、有識者の方から魅力ある観光スポットとしてどうすべきか提言はあったのか。



阿津賀志山山頂の美しい眺望を生かしたい

**問** 観光の拠点となるべき道の駅に国見町を紹介する案内板がない。施設2階のあつかしテラスに阿津賀志山の歴史などを紹介するプレートを設置するなど、来場者に国見の魅力をアピールするチャンスと捉え、

できることから実行すべきではないか。

**町長** 道の駅国見あつかしの郷は、

8月28日で来場者が80万人となった。道の駅からの情報発信は重要な課題であると強く認識している。ビデオ上映、リーフレットでのPRなどを実施しているが、発信の手法で一番効果的なものは何か定まっておらず、来場



訪れる多くの人に町の魅力を知ってほしい(道の駅オープン時のようす)

**まちづくり交流課長**

平成25年の「1000

0年のまち。これから

1000年のまちづくり基本計画」をはじめとした計画策定に有識者からいただいた意見、提言はおおむね次の5点である。

①国見にしかない地域資源

②体験型のサービス

③地域が儲かるビジネスモデルの構築

④伝えたくなる感動や意外性により話題性を高める

⑤交流連携で持続的戦略が取れる地域のプロデューサーの育成  
提言をいただき先進地視察などをしたが、結果として同様の考え方が示された。国見に合ったオリジナルの取り組み、観光づくりが

大切であり、課題である。



# Q 農業ビジネス訓練所研修生の定住化に向けた取り組みは

## A 国や地域と連携し定住でき得るシステムを作る

**問** 農業ビジネス訓練所の目的は。また、多品目栽培にこだわる理由は。

**産業振興課長** 町の基幹産業である農業の担い手の育成と主要農作物の水稲、果樹に次ぐ野菜の多品目栽培による園芸作物の振興を図り、稼げる農

業ビジネスモデルを構築する目的である。生産技術、栽培技術を上させ、多品目栽培で年間を通して生産出荷をしていきたいと考えている。

けだった。農業をビジネスとして捉えることはすばらしいが、農業のビジネスモデルとして構築できるのか。園芸作物の振興を図るのみでなく、農業の担い手育成も目的達成の1つの手段として掲げている。担い手の育成、野菜の多品目栽培体系の確立、販売ルート確保がすべて整ったのビジネスモデルと考えている。目的が少しでも早く達成できるように努めたい。

**問** 訓練所は平成30年度の運営予定だが、ハード事業での整備の進捗状況は。

**産業振興課長** 施設用地は、約5300平方メートルについてまもなく契約を締結する。建物は、実施設計業務を委託しており、その後に建築工事を発注する。その他、ミニトマトなどの溶液栽培を計画している鉄骨ハウス建設で発注の準備を進めている。

0万円が最長5年間交付される事業もある。認定新規就農者となれば、無利子の青年就農資金を3700万円まで借り入れができる。農業機械の導入にも補助事業があるので、それらを組み合わせた支援を想定している。

**問** 新規就農者の定住化に向けた、農地の取得や住宅の賃貸などの町の取り組みについて伺う。

**町長** ビジネス訓練所研修生の定住化を図ることは、町政振興の上で非常に重要な課題である。農業委員や農地利用最適化推進委員とも連携を図って対応したい。

も農地取得に向けた支援をしていく。住宅の確保については、町営住宅も資格があれば入居可能であり、民間の住宅の情報も提供なども考えている。また、空き家改修でシェアハウスなどにチャレンジすることも視野に入れて対応していきたい。何より地域との連携が必要である。地方創生事業のため、国と連携を図りながら町としても定住でき得るシステムづくりをしていきたい。

業ビジネスモデルを構築する目的である。生産技術、栽培技術を上させ、多品目栽培で年間を通して生産出荷をしていきたいと考えている。

**問** 今までの農業は立派な品物を作って共選所へ運ぶだ

るのみでなく、農業の担い手育成も目的達成の1つの手段として掲げている。担い手の育成、野菜の多品目栽培体系の確立、販売ルート確保がすべて整ったのビジネスモデルと考えている。目的が少しでも早く達成できるように努めたい。

**問** 新規就農者が農業訓練所を修了したからといって経営を順調に進めるのは容易ではない。長期的な支援は考えているか。

**産業振興課長** 国・県・町の補助事業の活用が考えられる。新規就農時45歳未満の経営者であれば、経営開始型の青年就農給付金として年間15

未利用地については、町内会長などと連携しながら町として

国見の農作物は各地でとても好評（トップセールスのようす）



阿部泰藏議員



国見の農作物は各地でとても好評（トップセールスのようす）



# Q 地方創生事業での優秀な人材を受け入れる環境づくりを

# A 人との連携ができるような町政執行に努めたい



村上 一議員

町としてこのような事例に積極的に取り組んでいくものと考えますが、いかがか。

**企画情報 課長** 空き家の利用意向などはすべて町で把握してはいるが、所有者の意向や今後活用できる事業も含め、個別に協議したい。また、第9町内会では、福島大学の学生とともに域学連携事業として集落活性化事業に取り組んでいる。そのような際の活用も可能ではないかと考えている。

では、若者の学び・交流の拠点となる「国見ホイスコーレ」の事業において取り組む予定。現段階では石母田地区の空き家を見学し検討しているが、地区を限定して考えているわけではない。場所や改修内容、財源の確保など、復興庁や県の支援を受けながらワークショップを開催し検討していく。

**問** これまでの事業で生まれた優秀な人材の活用が不可欠だと思ふ。町民の意識改革や受け入れの環境づくりが必要ではないか。

業で関わっていただいている皆様は町の大きな財産である。今後とも接点を持ち続け、活躍できる場の提供と対等な立場での連携を図りながら今後のまちづくりにつなげていくことが必要であり、人材活用の展望につながる。と考えている。

域の方々の理解と支援が必要であり、将来の国見町の発展につながるものと考えます。

各地区の夏祭りなどを通して、各就業分野や各地区で活躍をする人材が生まれつつあり、連携の成果が出てきていると感じた。地域は人で変わると思っている。趣旨を踏まえ町政執行に努めていきたい。

**問** 「国見流空き家改修プロジェクト」では趣旨を理解し、参加する町民は何か名いたのか。

「企画情報 課長」 復興庁地区づくりハズオン支援事業で実施した「国見ホイスコーレ第1回研修会」の参加者は9名で、うち7名が町内の参加者だった。

**問** 今回の空き家改修プロジェクトで石母田地区の民家を改修すると聞いているが、内容はどのようなものか。

「企画情報 課長」 空き家の改修について

**問** 徳江地区には改修しなくても使用可能な空き家があり、所有者は研修で来た学生などに開放してもよいと言っている。

「企画情報 課長」 地方創生に関する事業など、さまざまな

「企画情報 課長」 地方創生に関する事業など、さまざまな

**問** これまで地方創生に携わり国見町の良いところやお宝を発見し、情報発信をしてきた方々が、今後まちづくりの人材として活躍できる展望はあるのか。

**町長** まちづくりには地域の核となる「ひと」が大変重要である。優秀な人材は今後の国見町を担う宝である。その活躍には地



空き家の活用にも期待したい(国見ホイスコーレのようす)



浅野富男議員

## Q 非核平和都市宣言の看板を掲げては

### A さまざまな行動により意思表示をしていく

### 問

国見町議会は、平成23年3月15日、非核平和都市宣言を決議した。また、核兵器廃絶に向けた世界的な取り組みは、今年人類史上初めてのこのとして核兵器禁止条約が採択となった。国連の核兵器禁止条約とともに国見町議会が決

議した非核平和都市宣言についての所信を伺う。

### 総務課長

核兵器禁止条約は本年7月7日に賛成多数により採択されたが、核保有国などとともに我が国も不参加とした。しかし、日本国憲法の前文では、「政府の行為によつ

て再び戦争の惨禍が起ることのないようにすること、主権が国民に存すること」を宣言している。さきに国見町議会が決議した非核平和都市宣言は、憲法の趣旨と同一であるものと認識しており、国見町民全ての願いでもあり、人類共通の悲願であると考えている。

### 問

非核平和都市宣言の町であることを示す看板などがあるか。

あってもいいのではないかと考えているが、いかがか。

### 町長

意志を表明する対応や行動は

さまざまで、核兵器廃絶国際会議へのメッセージやペナントなどの送付、反核リレーへの協賛、終戦日の半旗掲揚・黙祷などをベースにしながら意志表明をしていきたい。

## 原発災害損害賠償について責任の所在の考え方は

### 問

原発事故により東京電力との間には自治体としての損害賠償の課題がある。これまでに支払われた賠償額は。

### 住民生活課長

平成23年度から27年度までの損害賠償について、賠償総額3928万8689円である。一般会計分は学校施設の表土除去、保育所遊具除染などに約984万円、空間線量測定や食品自主検査に係る人件費で約600万

円。23年度原発事故対応の時間外人件費は約808万円。空間線量測定器購入、講習会開催費用等で約99万円。特別会計では、水道水モニタリング検査費用と水道使用料減収分として約1112万円。下水道使用料の減収分は約326万円となっている。

### 問

賠償請求した中でまだ未補償となっているものと、その請求金額は。

### 住民生活課長

請求申し立てをした平成23年度から27年度までの金額は、一般会計・特別会計合わせて3億7232万8000円で、未賠償額は3億3303万9000円である。未賠償となっているのは、23年度の時間外人件費と物件費の一部であり、平成23年度以降は、東京

電力と個別項目ごとに協議を進めている。

### 問

新たに立ち上げた原発災害対策課には事故さえなければ費やすことのない時間とお金がかかっている。東京電力には責任をしっかりとってもらわなければならない。町として、その責任の所在の考え方は。

### 町長

原発事故により受けた損害について、責任の所在は当然に東京電力にあると強く思っている。この問題は間違いなく原発事故によって生じて職員を配置して対応しており、損害賠償は絶対とらなくてはならないと思っている。人件費の問題は県や近隣市町、関係機関と十分連携して力強く請求していきたい。

平成23年度以降は、東京電力と個別項目ごとに協議を進めている。



# Q 天候不順による被害農家への救済措置は

# A 被害状況を見極めながら対応していく



村上正勝議員

**問** 今年8月に入ると低温と日照不足が続き、長雨によりモモの晩成種や米への被害、農家の収入減が大きくなるものと懸念される。

天候不順により町の水稲やモモなどの農作物への影響は出ているのか。

**産業振興課長** 水稲については、出穂期も平年並みで現時点で影響は表れていない。

果樹については、ま

ずモモは、収穫期がお盆前後からの品種では糖度が低く、着色不良や実の軟化が早いものが比較的多かったとのことである。リンゴや

柿は、現時点で生育に対する影響は確認されていない。

野菜について、キュウリの生育に影響があり、生産出荷量が減少している。

現時点で深刻な状況には至っていないと考えており、今後の天候に十分注意し、適宜防除に努めていただきたい。

**問** JAふくしま

未来では、農作物への影響を懸念し、異常気象対策本部を設置している。これまでにない天候不順で農作物などへの被害が懸念されるが、迅速に対応

するため、町でも「対策本部」を設置する考えはあるか。

**産業振興課長** 天候不順が今後長引き、被害の拡大が懸念される場合は、「対策本部」の設置も視野に入れ検討していきたい。

**問** 被害農家に対する救済措置として、国や県に対し働きかけていく考えがあるか。

**町長** 農作物の収量減や品質の低下などの被害に対する救済措置をどのようにするかは農業をめぐる重要な課題である。現時点では、被害額などについては不透明な部分があり、今後の天候の状況などにより被害が甚大で、農業所得が極端に落ち込むような状況が明らかになれば、国や県に対しても働き

かけていきたい。また、町だけの問題ではなく、広域的に県や近隣市町、農業団体などとも連携しながら対策に取り組むことになると考えている。農業被害の状況を十分に見極めながら、対策本部の設置も含めて適時適切に対応していく。



小学校の学校田でも無事に稲刈りが行われました



## 総務文教

### 域学連携事業の 取り組みを確認

7月12日、企画情報課所  
管事務調査で域学連携事業  
の説明を受けました。

この事業は、大学生と教  
員が地域に入り、住民とと  
もに地域づくりなどに継続  
的に取り組み、地域の活性

化や人材育成につなげる事  
業です。

町では福島大学や桜の聖  
母短期大学とさまざまな取  
り組みを行っています。

学生にとっては大学では  
学べない貴重な体験学習が  
でき、そして地域の人々は  
地域のよさ（宝物）に気づ  
き誇りを持つことができま  
す。この事業が地域活性化  
の一翼を担うことを期待し  
ます。

（報告者 松浦常雄）

### 国見子どもクラブ で有意義な放課後 活動を

8月8日、幼児教育課所  
管事務調査で国見子どもク  
ラブ運営事業の説明を受け  
ました。

この事業は、保護者が仕  
事などで家庭にいない場  
合、授業終了後に適切な遊  
びと生活の場を与え、健全

な育成を図  
るもので  
す。

子どもクラブでの活動について説明を受ける

町では平  
成25年9月  
から対象の  
小学校全学  
年のうち3  
割以上の児  
童が利用し  
ています。  
休憩時間の  
活動を視察  
しました  
が、それぞ  
れ自由に、  
楽しそうに

## 産業建設

### 林道整備事業の 実態は

7月11日、産業振興課所  
管事務調査で林道整備事業  
の実地視察を行いました。

林道小畑線（582  
0メートル）は途中か  
ら砂利道ですが、大震  
災からの復旧を優先  
し、27年度以降舗装工  
事を中断しています。

北口線（4594  
メートル）は全線舗装  
され、「萬歳楽山」登  
山口の休憩所もありま  
す。

南半田赤坂線（35  
99メートル）も全線  
舗装されています。昨  
年7月の大雨により路

遊んでいました。  
運営側は年間活動計画を  
作成し、子どもたちが楽し  
く生活できるよう努めてい  
ます。一度に多数を見守る

難しさもありますが、指導  
員の方には細心の注意を  
払って事故などないようお  
願いします。

（報告者 松浦常雄）

肩の一部が崩落し、災害復  
旧工事が完了していました。  
調査の結果、3路線とも  
安全面での管理はなされて  
いると感じました。林道は、  
森林の維持管理に重要な役  
割があり、今後整備を  
図っていくことが大切だと  
思います。

（報告者 渡辺勝弘）



大学と連携した地域づくりを学ぶ



子どもクラブでの活動について説明を受ける



林道の整備状況を実際に確認

## 広報

### より分かりやすい 広報紙へ進化を

9月28日、東京都のシエーンバツハ・サボーで開催された広報研修会に参加しました。以下の3項目について講演がありました。

#### ①「伝える広報」から

「伝わる広報」へ  
行間や写真などを使った見やすさを重視し、結論から書くのがポイントである。

#### ②広報紙

何がどう変わってきたか  
情報伝達も多様化し、議会ホームページの充実や、QRコードからホームページへの誘導などの工夫も求められてきている。

#### ③広報コンクール

優秀賞受賞紙  
から学ぶ

どんな記事にも見出しを付けると内容を素早く理解できる。受賞紙はありふれた記事にも工夫が見られた。今後皆様もしっかり「伝わる」、よりわかりやすい広報紙を目指します。

(報告者 松浦和子)



より読みやすい広報紙とは、を真剣に考えます

## 地域の復興促進のため 三町議会が結束

### 伊達郡町議会議員大会

7月14日、国見町、桑折町、川俣町の伊達郡内3町の議会議員による第12回伊達郡町議会議員大会が観月台文化センターで開催されました。

### 暮らしやすい町を目指して

ました。国見町が提出した要望事項の内容は以下のと

おりです。

【桑折町・国見町】

・藤田病院の医師確保

【国見町】

・国道4号の整備促進と信号機・立体横断歩道の設置

並びに県道の歩道設置

・普蔵川、滝川、牛沢川の改修促進

その後に提案された2つの決議案も含め、全項目とも採択となりました。今後関係機関に強く要望していきます。

### 「3・11の被災地福島の復興と

### アジアにおける新しいビジネス」

講師 福島大学 吉高神 明 教授

続いて、福島大学経済経営学類の吉高神教授に講演をいただきました。福島の現状と課題や21世紀の新しい仕事・働き方など、教授の研究や経験を踏まえた独自の視点での講演でした。

(報告者 村上正勝)

最後にまとめとして、「インバウンド獲得」「風評

※インバウンドとは  
海外から日本に来る観光客のこと。



講演から地域振興のヒントを探る

大会では、国、県など関係機関へ提出する要望事項8件について審議が行われ

「インバウンド獲得」「風評



傍聴者からの

# 声

## 9月議会を傍聴したみなさんからアンケートにより率直な意見をいただきました。(抜粋)

- 質問、答弁についての用語が、知識不足でわからないため、何を言っているのかわからないものがあった。(70代・男性ほか1名)
- 質問の内容について、まだ町民が得ていない情報もあるので、参考になった。(70代・男性)
- 一般質問の順番を、通告順でなく順次変えてはどうか。(80代・男性)
- 答弁について、どなたも具体例を挙げていてわかりやすかった。(不明)
- 傍聴席に掛時計を設けてほしい。(80代・男性)



一般質問の日にはいつも多くの方に傍聴いただいています

## 議会の動き

9月5日 ～14日	9月議会定例会
9月5日	総務文教常任委員会、産業建設常任委員会 正副議長委員長会議
9月6日	広報常任委員会
9月9日	特別養護老人ホーム「国見の里」敬老会
9月10日	町総合防災訓練
9月11日	産業建設常任委員会
9月13日	正副議長委員長会議、全員協議会
9月14日	議会運営委員会、全員協議会、総務文教常任委員会、 産業建設常任委員会
9月16日	町敬老会
9月20日	義経まつり安全祈願、町交通対策協議会
9月23日	義経まつり
9月26日	本宮市議会視察来町
9月28日	町村議会広報研修会(東京都)
9月29日	広報常任委員会
9月30日	くにみ幼稚園運動会、鈴木耕治氏瑞宝半光章受章祝賀会
10月1日	小坂地区大運動会、三県交流国見町少年柔道大会
10月5日	町表彰審査会
10月6日	議員懇談会
10月7日	国見に咲く中尊寺蓮絵画コンクール表彰式
10月10日	広報常任委員会
10月11日	産業建設常任委員会
10月12日	公立藤田病院組合議会定例会
10月14日	県北地方植樹祭
10月15日	市町村対抗福島県ソフトボール大会(相馬市)
10月16日	伊達郡町村議会議長会要望活動(福島市)、 茨城県大子町議会常任委員会合同視察研修来町
10月17日	広報常任委員会
10月18日	議員懇談会
10月21日	国見小学校学習発表会
10月22日	県北中学校柏葉祭
10月23日	町村議会議員研修会(郡山市)
10月24日	伊達地方消防組合議会定例会、 伊達地方衛生処理組合議会定例会、 議会報告懇談会(～26日)
10月25日	総務文教常任委員会
10月29日	町文化祭開会式

### 一部事務組合報告

※一部事務組合とは  
複数の市町村などで行政  
サービスの一部を共同で  
行うために設置する組織

### 救急自動車の 車両を更新

伊達地方消防組合議会

7月12日、消防組合臨時  
会が開催され、救急自動車  
1台の動産の取得について

の審議が行われ、可決され  
ました。  
(報告者 渡辺勝弘)

### 送水管の

### 移設工事を繰越

福島地方水道用水供給  
企業団議会

(自然の水を浄化し、水道  
水として国見町、福島市、  
桑折町など3市3町に提供  
する事務組合)

8月31日、企業団議定会  
議が開催され、28年度決

算認定や予算の継続費の精  
算、送水管の移設工事2件  
の予算繰越しについての審  
議が行われ、全議案が可決・  
承認されました。

### 平成28年度決算認定

### ◆収益的収支決算額

収入 45億7617万円

支出 46億1961万円

### ◆資本的収支決算額

収入 1027万円

支出 23億9767万円

(収支差引不足分は、過年  
度分損益勘定留保資金など  
で補いました)

(報告者 東海林一樹)



安心して子育てできる町を

私は、人形劇（エプロン）、読み聞かせ（みみずく）、子育てクラブ、国見っ子わんぱく広場などのボランティア活動を行っています。

人形劇では、町内や近隣の幼稚園や保育所から招かれ、汗をかきかき演じていますが、子どもたちの笑い声と真剣な目をとともうれしく感じています。

読み聞かせは、ももたん広場や小学校で行っています。絵本が好きな子は一番前で見つめます。恥ずかしいけどうれしいですね。

子育てクラブは、お手伝いです。危なっかしい動きを見ていると微笑ましくなります。わんぱく広場は、小学校1



小林由香里さん  
(板橋町内会)

年生から3年生と活動しています。子どもたちの元気パワーについていくのが大変でクタクタになりますが、笑顔で楽しんでいる子どもたちを見てみると私も楽しくなります。

私は、幼少期の子育て環境が大切だと思っています。子育て相談ができるニコニコ相談会。親の交流の場としての子育てクラブ。乳児健診に合わせたブックスタート。道の駅の木育広場での子育て支援活動。そして高校生までの医療費の無償化。藤田病院もあるし安心ですね。

このように、私の町、国見町は「安心して子育てできる町」を目指していると感じています。

「子どもは宝」子どもたちの笑顔が、私を、私たちを元気にしてくれると実感しています。体力は落ちてきますが、子どもたちから元気をもらって、子どもたちと一緒に活動を続けていきたいと思っています。

# 28年度の事業の成果を調査



小学校校庭は水はけが良くなり活動しやすくなりました

9月定例会会期中の9月8日、平成28年度の決算認定についての議案調査の一環として、平成28年度中に行われたおもな事業の成果を確認するため、議員全員で現地調査を行いました。

調査事業は以下のとおりです。

- ① 赤坂配水池建設工事、泉田新田送水ポンプ場設備工事
- ② 旧大木戸小学校改修（あつかし歴史館）
- ③ 県北中学校校外壁改修
- ④ 国見小学校校庭暗渠工事

8月に降り続いた長雨で農作物の影響が心配されましたが、9月に入ると天候も持ち直し、それほど影響もなくて済みました。

さて、すっかり恒例となりました義経まつりも今年で22回目を数え、9月23日に盛大に開催されました。心配された雨も開祭式前には上がり、すべての行事が予定どおり行われました。メイン会場となった文化センター前広場はもちろんのこと、商店街で開催されたグルメ街道にも大勢の客が訪れ大変な賑わいでした。中でも驚いたことは、公募していた静御前役に応募した人たちの多くは県外の人たちで、そういう意味では、我が国見町の義経まつりも全国的になってきているのかなと思います。

(東海林 一樹)

発行責任者

議長 東海林 一樹

広報常任委員会

委員長 松浦 和子

副委員長 村上 正勝

委員 東海林 一樹

同 八島 博正

同 佐藤 定男

同 井砂 善榮

